

2023. 6. 23

【BOE 金融政策委員会（23年6月）】

利上げ幅を再び拡大

～9月会合まで利上げを継続すると予想～



経済調査部 エコノミスト
木村 彩月

ポイント

- BOEは、6月22日開催のMPC（金融政策委員会）で、3会合ぶりに0.50%の利上げを決定
- サービス価格の上昇や食料価格の高止まりなどを背景に、CPIは依然として高い伸びとなっており、BOEがこれまで想定していた以上に、根強いインフレ圧力が残っている様子が示されている
- BOEは次回8月のMPCで0.50%、9月に0.25%の利上げを実施し、政策金利を5.75%まで引き上げると予想

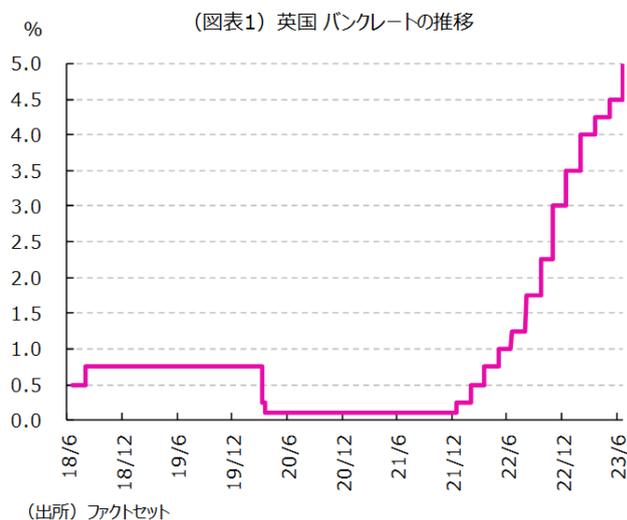
1. BOEは利上げ幅を再び拡大

BOE（イングランド銀行）は6月22日開催のMPC（金融政策委員会）で、3会合ぶりに0.50%の利上げを決定した。3月、5月会合では、利上げ幅を0.25%としていた。この決定により、政策金利であるバンクレートは、4.50%から5.00%まで引き上げられた（図表1）。利上げ自体は今回で13会合連続となった。

9名の委員による投票の内訳を見ると、ベイリー総裁を含む7名が0.50%の利上げ、テンレイロ氏とディングラ氏の2名は、前回同様すえ置きを主張した。

声明文によると、利上げを主張した7名の委員は、「最近のデータには、ひっ迫した労働市場と継続的な需要の底堅さを背景に、インフレの粘着性を示す重大な上振れ材料があった」との認識を示し、「公式予測に対する賃金上昇率とサービス価格のインフレ率の最近のアップサイド・サプライズの程度は、今回の会合で0.50%の利上げが必要であることを示唆した」と、利上げ幅の引き上げに至った理由について説明している。

一方、すえ置きを主張した2名は、「エネルギー価格とその他の世界的なコスト・プッシュ・ショックが2023年にかけて反転を続けるなか、財価格のインフレ率は急低下するはずであり、多少のラグはあるものの、国内の賃金と物価の粘着性は低下するだろう」としたほか、金融政策には遅効性があり、これまでの金融引き締めによ



る影響はまだ現れていないとして、「現在の政策金利の水準は、中期的にはインフレ率を目標水準以上に低下させる可能性が高い」との見解を示した。

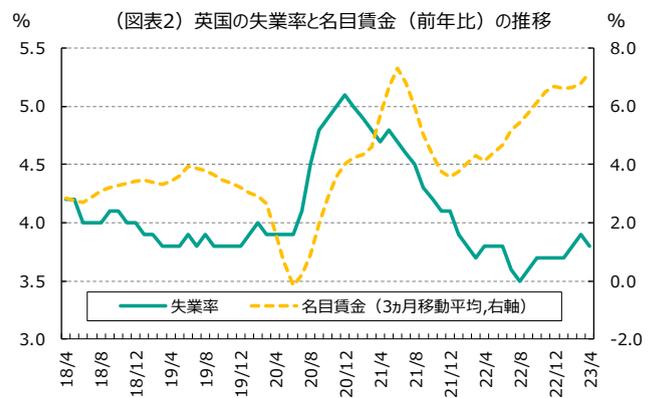
今後の利上げに関するフォワードガイダンスでは、「労働市場のひっ迫や賃金上昇率、サービス価格のインフレ率の動向など、経済全体における持続的なインフレ圧力の兆候を引き続き注視していく」としたうえで、「より持続的なインフレ圧力を示す証拠があれば、さらなる金融引き締めが必要となる」と、前回会合の方針を維持した。

2. インフレ率はBOEの予測を上回る

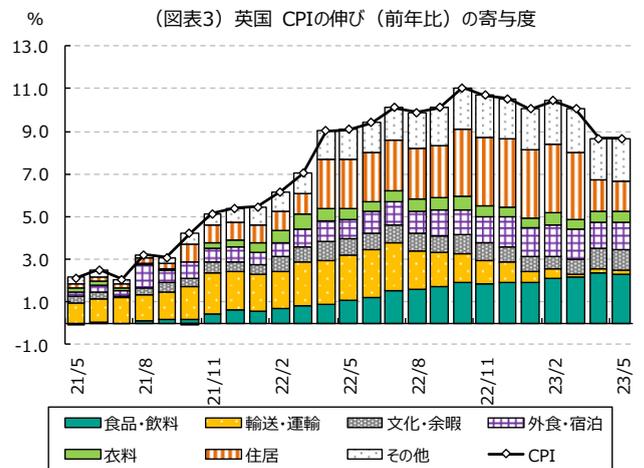
議事要旨では、英国の2023年4-6月期の実質GDP成長率について、前期比±0.0%で伸びが横ばいになるとの見通しを示した。7-9月期については、4-6月期より不確実性があるとしたものの、前期比+0.25%程度の成長率が合理的な中心予測であるとした。

雇用環境については、「ひっ迫度を示すいくつかの指標は緩和を続けているが、労働市場は全体として歴史的な基準に照らして依然ひっ迫している」との認識を示した。先行指標とされる求人倍率はすでにピークアウトしているものの、2-4月の失業率は3.8%とまだまだ低位で推移しているほか、名目賃金は前年比+7.2%と、前月から一段と伸びが拡大した(図表2)。深刻な物価高を背景に、昨年からのストライキが頻発しているほか、英国政府による最低賃金の引き上げも相まって、賃金の上昇圧力は強まっている。

MPCの前日に公表された5月のCPI(消費者物価指数)は、事前の市場予想では、4月の前年比+8.7%から同+8.4%へ鈍化すると見込まれていたが、結果は同+8.7%と、同じ伸びになった(図表3)。これは、前回MPCで示された予測を+0.3%ポイント上回っている。特に、サービス価格の伸びは、前月の同+6.9%から同+7.4%に上昇しており、こちらは前回予測より+0.5%ポイントも高い。サービス価格の上昇などを背景に、コアCPIも同+7.1%と、前月(同+6.8%)から伸びが拡大しており、BOEがこれまで想定していた以上に、根強いインフレ圧力が残っていることが示された。BOEは、エネルギー価格の動向を反映し、今後のインフレ率は年間を通じてさらに大幅に低下するとの見通しを示した。BOEは、エネルギー価格の動向を反映し、今後のインフレ率は年間を通じてさらに大幅に低下するとの見通しを示した。BOEは、エネルギー価格の動向を反映し、今後のインフレ率は年間を通じてさらに大幅に低下するとの見通しを示した。



(出所) 英国国家統計局



(出所) 英国国家統計局より明治安田総研作成

3. BOEは今後も利上げを継続

今回のMPCでは、高インフレとひっ迫した労働市場に対処すべく、0.50%の利上げを決定した。議事要旨では、エネルギーや食料価格などが低下することを主因に、インフレ率は今後大幅に低下するとの見通しを示したが、今後の利上げに関するフォワードガイダンスでは、追加利上げの可能性を残している。当面の英国景気は底堅い推移が予想され、高い賃金上昇率などを背景に、インフレ率はサービス価格を中心に高い伸びが続くと見込まれ

る。賃金上昇とインフレ率上昇のスパイラルが加速するリスクも考慮すると、BOE は次回 8 月 MPC で 0.50%、9 月に 0.25%の利上げを実施し、政策金利を 5.75%まで引き上げると予想する。

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先●株式会社明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411